

建設 リサイクル

2023.冬号 Vol.100

特集

2022 建設リサイクル技術発表会
・技術展示会



建設副産物リサイクル広報推進会議

目次

特集

- 2022 建設リサイクル技術発表会・技術展示会** 1
建設副産物リサイクル推進会議 事務局
キーワード：技術発表会、技術展示会、優秀技術展示表彰、建設資源循環利用促進賞表彰

ニュースフォーカス

- 2022年度建設資源循環利用促進賞決定** 14

建設リサイクルQ & A

建設副産物リサイクル広報推進会議 事務局

- Q. TCFDとは?** 15

インフォメーション

建設副産物リサイクル広報推進会議 事務局 16

- ・建設副産物リサイクル広報推進会議の活動について
キーワード：建設リサイクル、広報活動

特に断り書きのない場合、執筆者の所属・職位等は執筆当時のものです。
本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

表紙／2022 建設リサイクル技術発表会 登壇者

- 上段 左より 建設副産物リサイクル広報推進会議 佐藤会長、国土交通省 隅藏企画調整官、
京都大学大学院 勝見教授
中段 左より 麻生フォームクリート（株）前野氏、（株）オクノコトー 奥野氏、GEOTETS 工法
研究会 西氏、日本国土開発（株） 彗賀氏、
下段 左より 2022 建設リサイクル技術展示会 優秀賞表彰、2022 建設資源循環利用促進賞表彰

2022建設リサイクル技術発表会・技術展示会

建設副産物リサイクル広報推進会議 事務局

キーワード：技術発表会、技術展示会、優秀展示表彰、建設資源循環利用促進賞表彰

1. 開催概要

令和4年11月9日、10日に「2022建設リサイクル技術発表会・技術展示会」を「建設技術展 2022 近畿」と同時開催でインテックス大阪にて開催しました。

技術発表会は9日に開催し、技術展示会は9日と10日の両日開催しました。

技術発表会の参加者は、約70名、技術展示会は2日間で延べ16,595名（建設技術展2022 近畿）でした。

2. 2022 建設リサイクル技術発表会の概要

技術発表会は、次項に示すプログラムにより実施し、概要を示します。

技術発表会の後には、技術展示会に参加している団体の中から優秀展示の表彰及び2022年度建設資源循環利用促進賞の表彰を行いました。



建設副産物リサイクル広報推進会議
佐藤 直良会長 開会挨拶



国土交通省総合政策局公共事業企画調整課
隅藏 雄一郎インフラ情報・環境企画調整官
来賓挨拶

3. 講演及び発表概要

(1) 基調講演

国土交通省総合政策局公共事業企画調整課隅藏インフラ情報・環境企画調整官より「建設発生土の有効利用と今後の展開」と題し、基調講演を頂きました。

主な内容は、i)建設リサイクルの現状、ii)建設リサイクル推進計画2020、iii)建設発生土について、iv)盛土による災害の防止に向けた取組、v)建設発生土の有効利用の促進 です。

「2022建設リサイクル技術発表会」プログラム

時間：令和4年11月9日（水） 13：00～16：30

場所：インテックス大阪 6号館5階 ホールG
大阪市住之江区南港北1-5-102

主催：建設副産物リサイクル広報推進会議・建設副産物対策近畿地方連絡協議会

13:00	開 会		
13:00～13:10	開会挨拶	建設副産物リサイクル広報推進会議 会長	佐藤 直良
13:10～13:15	来賓挨拶	国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 インフラ情報・環境企画調整官	隅藏 雄一郎

基調講演

13:15～13:45	「建設発生土の有効利用と今後の展開」	国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 インフラ情報・環境企画調整官	隅藏 雄一郎
-------------	--------------------	---	--------

技術発表

13:45～14:20	「気泡混合軽量盛土による既設橋梁の長寿命化」	麻生フォームクリート株式会社	
	「建設発生土の有効利用 -更なる有効利用へ-」	株式会社オクノコト	
14:20～14:35		休 憩	
14:35～15:10	「GEOTETS（土留材引抜同時充填工法）工法について」	協同組合 Masters GEOTETS（ジオテツ）工法研究会	
	「回転式破碎混合工法による建設発生土リサイクル技術 工法紹介および改良事例」	日本国土開発株式会社	

特別講演

15:10～16:10	「発生土の利用促進に向けて」	京都大学大学院地球環境学堂 教授	勝見 武
-------------	----------------	------------------	------

表 彰

16:10～16:30	2022 建設リサイクル技術展示会 優秀展示表彰 2022 年度建設資源循環利用促進賞表彰		
16:30	閉 会		

敬称略



国土交通省 隅藏企画調整官

i)建設リサイクルの現状では、2018年度の建設副産物のリサイクル率については、建設混合廃棄物が唯一90%を下回っているが、他の品目は90%以上となっているなどの建設リサイクルの現状が紹介されました。

ii)建設リサイクル推進計画2020について

① 建設リサイクル推進計画とは

・建設副産物のリサイクルや適正処理等を推進するため、国土交通省における建設リサイクル推進に向けた基本的な考え方、目標、具体的施策をとりまとめた計画

・これまで4回(1997、2002、2008、2014年)策定しており、今回が5回目となる「建設リサイクル推進計画2020～「質」を重視するリサイクルへ～」が策定されました。

② 推進計画2020のポイント

- ・維持・安定期に入ってきた建設副産物のリサイクルについて、今後は「質」の向上が重要な視点
- ・建設副産物の再資源化率等に関する2024年度達成基準値(目標)を設定し、建設リサイクルを推進
- ・これまで本省と地方で分かれていた計画を統合

③ 計画期間・目標設定(達成基準値)

- ・計画期間:最大10年間、必要に応じて見直し
- ・目標設定:2024年度を目標とし、今後

5年間を目途に施策を推進

1)建設発生土の有効利用について

建設発生土は、資源有効利用促進法及び同法施行令において「指定副産物」に定められ、再生資源としての利用促進が特に必要なものとして位置づけられている。

平成30年度調査では、同一現場内や他の工事等で有効利用された建設発生土の割合は79.8%。相当程度進んでいるが、今後はこの割合を少しでも向上させることが必要。

有効利用の促進にあたっては、同一現場内で有効利用する取組や、各工事における需要と供給の情報を共有しながら工事間利用を促進する取組を進めることが重要。

2)廃プラスチックの分別・リサイクルの促進

SDGsなど国際的に対応が求められている廃プラスチックについて、建設分野における排出量も大きいことから、これまでの計画では個別に扱っていなかった建設工事から発生する廃プラスチックの分別・リサイクルを促進するため、データ等の収集・分析を行い、目標の指標について検討している。

iii)建設発生土について

建設発生土に関する取り組むべき施策については以下の4つが紹介されました。

① 建設発生土の公共工事間の利用調整

- ・公共工事土量調査、建設発生土情報交換システム

② 建設発生土の官民利用調整

- ・建設発生土の官民有効利用マッチングシステム

③ 建設発生土の適正処理促進のための取組

- ・建設発生土の計画制度の強化、指定利用等の徹底

④ 社会情勢の変化を踏まえた排出抑制に向けた取組

iv)盛土による災害の防止に向けた取組

盛土による災害の防止のための今後の取

組については、

1) 宅地造成及び特定盛土等規制法（盛土規制法）により盛土の安全性の確保

危険な盛土等を全国一律の基準で包括的に規制する法制度として、「宅地造成等規制法」を法律名・目的も含めて抜本的に改正し、「宅地造成及び特定盛土等規制法（盛土規制法）」が公布（R4.5.27 / 施行：公布の日から1年を超えない範囲内で、政令で定める日）された。

2) 建設発生土の搬出先の明確化の取組

建設発生土の搬出先の明確化を行うために搬出・搬入のプロセスに着目し、指定利用等の徹底・計画制度の強化を行う。

v) 建設発生土の有効利用の促進

建設発生土の有効利用の促進として、資源有効利用促進法の政省令を改正（R4.9.2公布、R5.1.1施行）。

についてご講演頂きました。

(2) 技術発表

1) 気泡混合軽量盛土による既設橋梁の長寿命化

麻生フォームクリート株式会社 前野様より「気泡混合軽量盛土による既設橋梁の長寿命化」と題しまして発表して頂きました。

気泡混合軽量土は、良質締固め土（ 19N/m^3 、 $q_u < 300\text{N/m}^2$ ）に比べ、細骨材を使用しない場合の密度が1/4程度で、一軸圧縮強さ q_u は $300 \sim 1000\text{N/m}^2$ と軽量で高強度の材料である。また、流動性に優れ1000mまでの圧送が可能で、打設後の締固めも不要である。この材料特性を生かし、既設橋梁の土工化による長寿命化や道路の拡幅を行うことができる。

気泡混合軽量土による施工事例の紹介があった。

メリットとしては、

- ① 供用中の道路規制が不要
- ② 外足場が不要
- ③ 施工後定期的な橋梁点検が不要となる



麻生フォームクリート 前野氏

2) 建設発生土の有効利用—更なる有効利用へ—

(株)オクノコトー 奥野様より「建設発生土の有効利用—更なる有効利用へ—万能土質改良システムを活用した総合的な利活用」と題しまして発表して頂きました。

万能土質改良システムは、土質性状の異なる2または3種類の建設発生土を組み合わせ混合し、利用用途に応じた品質の盛土材料を製造するものです。

万能土質改良システムを用いた事例を紹介して頂きました。



オクノコトー 奥野氏

3) GEOTETS（土留材引抜同時充填工法）工法について

GEOTETS（ジオテツ）工法研究会 西様より「GEOTETS（土留材引抜同時充填工法）工法について」と題しまして発表して頂きました。

ジオテツ工法は、鋼矢板、鋼管矢板、仮設栈橋のH杭、既設杭など、いろいろな地中

特集

構造物を引抜く場合の沈下対策の特許工法です。この工法専用の充填材を充填しながら引抜きを行うことで、引抜き後の周辺地盤にほとんど影響を及ぼすことが無くなります。

この工法は、軟弱地盤の他あらゆる地盤条件、引抜き方法において採用可能です。

近年は集中豪雨による大災害が頻発していることもあり、河川やため池堤防における仮設土留め工事において、土留め材引抜き時に水みちを作らないオンリーワンの対策工法として河川管理者にも注目されており、水中施工も可能です。

また、施工事例についてもご紹介いただきました。



ジオテツ工法研究会 西氏

4) 回転式破碎混合工法による建設発生土リサイクル技術 工法紹介および改良事例

日本国土開発株式会社 多賀様より「回転式破碎混合工法による建設発生土リサイクル技術 工法紹介および改良事例」について発表していただきました。

本技術は従来工法では対応が困難な高含水比粘性土や軟岩混入土などの建設発生土を均質に攪拌混合して、密実で締固め易い高品質な盛土材に改良する技術です。

本技術の活用により、幅広い建設発生土の活用が可能となり、事業コストの縮減、リサイクルの向上、安定した品質が期待できます。

「回転式破碎混合工法」は、円筒内で高速回転する複数本のフレキシブルなチェーンの打撃力で、2または3種類の建設発生土を破碎・細粒化（解砕）すると共に、均一

に分散させ混合することによって、破碎と混合とを同時に行う工法です。

また、施工事例についてもご紹介いただきました。



日本国土開発株式会社 多賀氏

(3) 特別講演

京都大学大学院地球環境学堂 勝見 武教授より「発生土の利用促進に向けて」についてと題し、特別講演を頂きました。

主な内容は、

- 1) 建設リサイクル推進計画
 - 2) 発生土/残土をめぐる課題
 - 3) 自然由来の重金属等
 - 4) 災害廃棄物、廃棄物混じり土、建設汚泥
- についてです。

1) 建設リサイクル推進計画

建設リサイクル推進計画 2020 で示された「対応すべき主要課題」について紹介。

- ① 建設副産物の高い再資源化率の維持等、循環型社会形成へのさらなる貢献
- ② 社会資本の維持管理・更新時代到来等への配慮
- ③ 建設リサイクル分野における生産性向上の必要性

2) 発生土/残土をめぐる課題

自治体による残土条例の紹介。

残土受入地における大量堆積や崩壊など、不適正事案を契機に条例が定められる例が多い。

- ・残土受入施設に求める要件の例

安定性等に関わる事項

→ 土量、高さと勾配など

- ・汚染に関する事項
→ 環境基準の適合/不適合など
- ・盛土材に関する事項
→ 廃棄物混入の有無など

3) 自然由来の重金属等

① 自然由来重金属等含有土等の対応が必要となりうる地質等の紹介。

海成泥岩・粘土：フッ素、ホウ素、ヒ素、セレン、フランボイダルパイライト・・・

花崗岩類：フッ素・・・

超塩基性岩類：六価クロム・・・

熱水変質部：重金属等を含む鉱物や黄鉄鉱などの硫化鉱物・・・

金属鉱山・鉱床：重金属等が濃集。硫化鉱物。

② 自然由来の重金属等を含有する土への対応の現状

- ・自然由来の重金属等や酸性化が問題となることがある。
 - 基準不適合とは言え、濃度はそれほど高くないものが多い。
 - 現場固有の事情にあわせて対応が進められる。
 - 問題となる掘削土を活用する場合は、遮水シートでくるむなど、締固めにより遮水性を高めるなどの方法がとられている。
- ・過剰な対応や、不十分な対応の事例が少なからずあるようである。
 - 周辺住民など関係者の理解と反応
 - 土壌汚染対策法の影響

③ 自然由来土の土壌汚染対策法

2019年4月以前の土壌汚染対策法のもとでは、基準不適合の土壌を指定区域から搬出する場合は、汚染土壌処理施設に委託しなければならなかった（法対象外では、国交省マニュアルなどに基づいて掘削土の利用が進められてきた）。

自然由来重金属等含有土（基準不適合土）は濃度が低いものが多い。土を資源として活用する観点から、リスク

管理に基づき盛土構造物等への活用を可能とする制度が検討され、2017年5月法改正、2019年4月施行されている。

4) 災害廃棄物、廃棄物混じり土、建設汚泥

- ・東日本大震災の災害廃棄物処理と再生資材の利用

「岩手県復興資材活用マニュアル」の内容紹介

- ・廃棄物混じり土
土をどれだけきれいに分別するかの明確な基準はない
- ・建設汚泥処理物

2020年7月20日環境省「建設汚泥処理物等の有価物該当性に関する取扱いについて（通知）」では、「建設汚泥やコンクリート塊に中間処理を加えて当該建設汚泥処理物等が建設資材等として製造された時点において、有価物として取り扱うことが適当である。」とされた。



京都大学大学院 勝見教授

4. 表彰

講演終了後に、建設リサイクル技術展示会優秀展示表彰と2022年度建設資源循環利用促進賞表彰の表彰式を執り行いました。

(1) 2022 建設リサイクル技術展示会優秀展示表彰

本表彰は、2022 建設リサイクル技術展示会の出展技術の中から優秀な展示について表彰するものです。受賞者は以下の通りです。

- ・ JER コンクリート補改修協会／
日本ジッコウ株式会社



表彰式の様子

左から佐藤会長、JER コンクリート補改修協会／日本ジッコウ株式会社、建設副産物対策近畿地方連絡協議会委員長代理 近畿地方整備局 奥田企画部長

(2) 2022 年度建設資源循環利用促進賞表彰

建設資源循環利用促進賞は、建設事業における再生建設資材をより一層利用することを目的として、再生建設資材のうち、建設発生土、建設汚泥処理土、再生骨材コンクリートを対象として、自主的にその利用量が多い工事事業者または工事元請業者を表彰するものとして、2019 年度に創設しました。受賞者は以下の通りです。

- ・ 建設発生土：勝山砂利採取販売協同組合
- ・ 建設汚泥処理土（改良土利用）：
昭和建設工業株式会社
- ・ 再生骨材コンクリート：
メタウォーター株式会社



表彰式の様子

左から佐藤会長、メタウォーター株式会社、建設副産物対策近畿地方連絡協議会委員長代理 近畿地方整備局 奥田企画部長

※勝山砂利採取販売協同組合、昭和建設工業株式会社は急用により欠席

なお、本技術発表会の動画は YouTube にて配信しています。「建設リサイクル」「技術発表会」で検索してみてください。

<https://youtu.be/uVQwF85ahzU>

特集

5. 技術展示会

技術展示会には、10者の出展がありました。出展者と出展技術の内容を以下に示します。

No.	出展者 出展技術名
59	麻生フォームクリート株式会社 『橋梁の長寿命化技術(土工工法)』
60	JER コンクリート補改修協会／日本ジッコウ株式会社 『MY-300S システム』
61	鐵鋼スラグ協会 『SDGs の達成に貢献しうる環境資材』
64	建設副産物対策近畿地方連絡協議会 『近畿建設リサイクル表彰』
65	建設副産物リサイクル広報推進会議 『建設副産物リサイクル広報推進会議の活動内容』
66	鈴木産業株式会社 『無溶剤無機質コーティング材料「セラトン」』
67	日本国土開発株式会社 『回転式破碎混合法による建設発生土リサイクル技術』
68	協同組合 Masters GEOTETS(ジオテツ)工法研究会 『GEOTETS(ジオテツ)工法』
177	なおしタル工法研究会/(株)ニューテック 『なおしタル工法』
178	株式会社オクノコトー 『万能土質改システム』

出展No.は、同時開催しました建設技術展 2022 近畿の小間番号です。

特集

・ 2022 建設リサイクル技術展示概要

No.59

社名：麻生フオームクリート株式会社

出展技術の名称：橋梁の長寿命化技術（土工工法）

出展技術の概要

近年実績が増えている、気泡混合軽量土を用いた橋梁の長寿命化技術です。橋脚や橋桁を残したまま、気泡混合軽量土で橋梁下部の空隙を充填して土工化します。これにより埋設された橋梁の定期点検・補修は不要となり、長寿命化に加えその後のランニングコスト削減という効果も得られます。

気泡混合軽量土とは、スラリー（泥状物）状のモルタルと気泡を混合した材料であり、パネル壁を残存型枠として打設します。

作業は橋梁下空間のみで行うため、道路を通行止めすることなく供用しながらの施工が可能、また型枠パネル組立のために外足場も必要ありません。さらに、現場近くにプラント設備用ヤードスペースがない場合は離れた場所からの長距離圧送が可能です。



連絡先：TEL：044-422-2061

e-mail：masuda-t01@aso-group.co.jp

担当者：増田・前野

No.60

社名：JER コンクリート補改修協会／日本ジッコウ株式会社

出展技術の名称：MY-300S システム

出展技術の概要

MY-300S システムとは、農業用水路やその他水路にて補修が必要とされる「表面劣化」「目地破損」「鉄筋の錆」「ひび割れ」「漏水」など全ての補修を自社商材にて補修を可能としたシステムです。

MY-300S システムは、特殊粉末樹脂と特殊短繊維を既調合した材形のホリマセメントモルタルである「Zモルタル MY-300S」を用いた水路補修用モルタルライニング工法で、農業利水施設の補修・補強工事に関するマニュアル【開水路補修編】(案)に適合した材料です。



壁面施工完了写真



MY-300S システム施工前



MY-300S システム施工後

連絡先：Tel 078-974-1141 Fax 078-974-8631

担当者：JER コンクリート補改修協会 事務局 担当者大木裕文

URL：https://www.jikkou.co.jp

特集

No.61

社名：鐵鋼スラグ協会
出展技術の名称：SDGs の達成に貢献しうる環境資材
出展技術の概要
<p>鐵鋼スラグ製品は様々な用途に応じて製造・品質管理が行われ、環境基準をクリアし、今やその大半が JIS(日本工業規格)相当品またはグリーン調達の特典調達品目として市場に提供されています。その結果、日本各地の道路・港湾・空港等のインフラを支える建設資材として、また海や土壌等の環境修復・改善につながる環境資材として、鐵鋼スラグ製品は大きな役割を果たしています。持続可能な社会の実現に向けて、鐵鋼スラグ製品の有用な活用は SDGs の達成に貢献できると考えています。</p>
 <p>The infographic is divided into two main sections. The left section, titled '社会の中で活躍する鐵鋼スラグ製品' (Iron slag products active in society), features a grid of 12 small images with labels: 製鉄所 (Iron-making plant), セメント用鐵鋼スラグ製品 (Iron slag for cement), コンクリート用鐵鋼スラグ製品 (Iron slag for concrete), 道路用鐵鋼スラグ製品 (Iron slag for roads), 浜締め材 (Beach reinforcement), 地盤改良材 (SCP) (Soil improvement material), 肥料用鐵鋼スラグ製品 (Iron slag for fertilizer), ロックウール原料 (Rock wool raw material), 鐵鋼スラグ製人工石材 (Artificial stone made of iron slag), カルシア改良材 (Calcium improvement material), 鉄分供給ユニット (ビバリーユニット) (Iron supply unit (Vivary unit)), and 全画イメージ (Overall image). The right section, titled '鐵鋼スラグとは何だろうか?' (What is iron slag?), explains that it is a byproduct of iron-making. It includes a flow diagram showing the process from iron-making to iron slag, and then to various applications. It also features a cartoon character and text explaining that iron slag is a byproduct of iron-making and is used in various applications, including as a raw material for rock wool and as a calcium improvement material. It also mentions that iron slag is used in the production of artificial stone and as a calcium improvement material.</p>
連絡先：TEL：06-6448-5817
担当者：鐵鋼スラグ協会 大阪事務所 大澤

No.66

社名：鈴木産業株式会社
出展技術の名称：無溶剤無機質コーティング材料「セラトン」
出展技術の概要
<p>特許第 2137192 号 US PAT5292799 あらゆる建築物・構造物にコーティングでき、しかも無溶剤なので健康への悪影響が無く、臭気公害や化学物質過敏症などの心配が無い安全で超耐久性を発揮する一液型のメンテナンスフリー材料</p>
連絡先：TEL：03-6205-8285 お問い合わせ： https://www.suzukisangyou.com/form/
担当者：渡辺

特集

No.67

社名：日本国土開発株式会社
出展技術の名称：回転式破碎混合工法による建設発生土リサイクル技術
出展技術の概要
本技術は、従来工法では対応困難な高含水比粘性土や軟岩などの建設発生土も均一に攪拌混合が可能な土砂改良技術です。また、回転式破碎混合機に振動ふるい機と風力選別装置を併設することで、土砂の粒度改善、強度改善、ガレキの分別除去の3つの処理を大量かつ連続的に1つのプラントで行うことができます。本技術で改良した良質な改良土は築堤、路盤材料等への活用が図れます。現在では、豪雨被害を受けた地域の河川工事等で多く採用され、災害に強い国土づくりに貢献しており、これまでに1,000万m ³ の改良実績を有します。(旧NETIS番号：KT-080048-VE)
連絡先：TEL：06-6306-6742 e-mail：fumihiro.suzuki@n-kokudo.co.jp 担当者：大阪支店 土木営業部 鈴木 史浩



No.68

社名：協同組合 Masters GEOTETS(ジオテツ)工法研究会
出展技術の名称：GEOTETS (ジオテツ) 工法
出展技術の概要
従来、鋼矢板残置を前提となっていた鉄道や民家、地下埋設物の近接工事において、周辺影響を心配せず、安心して引き抜きできます。 全体工事費を削減し、水中での施工も可能。
■主な特徴
<ul style="list-style-type: none">引き抜きに空隙に同時充填し、周辺地盤への沈下を高度に抑制。鋼矢板残置に比べて、大きく費用を削減。災害発生後の資材不足に対してリユースで施工対応可能。リユースで環境配慮が可能。
■その他の用途
<ul style="list-style-type: none">堤防・橋台施工—水みちをつくらない。仮設材の残置不要。杭の引抜き—高速同時充填で沈下抑制土壌汚染対策—土留撤去後も遮水壁として活用。ガソリンスタンド解体工事でも採用。
鉄道近接工事実績も増え、全国のJR線私鉄各社においても、採用が急増しています。
連絡先：TEL：078-381-9914 e-mail：watanabe@hikinuki.jp 担当者：渡辺広明



特集

No.177

社名：なおしタル工法研究会／株式会社ニューテック
出展技術の名称：なおしタル工法
出展技術の概要
なおしタル工法は、高チクソトロピータイプ無収縮特殊ポリマー系断面修復モルタル材「なおしタルシリーズ」を使用した断面修復工法です。高いチクソトロピー性を有し、付着性能、高強度性能、厚付け性能等において高いパフォーマンスを発揮します。左官工法、湿式吹付け工法のどちらでも対応ができ、橋梁・水路・トンネル等の補修・補強工事、土木建築の耐震補強工事、海洋構造物補修（電気防食）工事など幅広い分野で使用することができます。
連絡先：TEL：03-5918-9688 e-mail：hoshi@kknewtech.co.jp 担当者：星

No.178

社名：株式会社オクノコトー
出展技術の名称：万能土質改良システム ～現場の更なる有効利用をすすめ循環型社会を拓げる～
出展技術の概要
本技術は、建設現場で発生する土質性状の異なる 2～3 種類の土砂を活用し、物理的混合処理（粒度調整）をおこない、利用用途に応じた品質を満足する盛土材をつくるシステムです。混合比率・運転は自動制御による管理をおこない、生産性向上・出来高・品質に対して安定した施工を可能にしています。 盛土材としてそのままでは使用できない土砂の利活用を目的に、河川、道路、都市開発工事の多様な建設発生土、また東日本大震災の津波堆積土砂を有効利用し、河川堤防・道路の盛土材など、要求品質に適合したリサイクル「盛土材への再生」に取り組んでいます。建設現場の質・量・工程のバランスと盛土材への更なるニーズに対して、1997 年から 25 年間継続し現在まで約 1000 万 m ³ の有効利用をおこなっています。
連絡先：TEL：072-675-0388 e-mail：info@okunokotoh.jp 担当者：奥野 廣造 U R L：http://www.okunokotoh.jp



建設副産物対策近畿地方連絡協議会

建設副産物対策近畿地方連絡協議会は、建設事業に伴い発生する建設副産物の近畿圏域における計画的な利用促進に関し、必要な協議及び情報の収集、交換等を行い、事業の円滑な推進に寄与することを目的に、近畿地方整備局、近畿農政局、第五管区海上保安本部、府県、市、特殊法人及び建設業界団体等の34機関から構成される団体です。

関係機関が一体となって建設副産物のリサイクルに関する普及啓発活動を推進しています。

また、建設副産物対策近畿地方連絡協議会では、平成22年度より、近畿地方において建設リサイクル（リデュース・リユース・リサイクル）に取り組む個人、団体、企業等を「近畿建設リサイクル表彰」により表彰しています。

構成機関	
国土交通省 近畿地方整備局	地方共同法人日本下水道事業団近畿総合事務所
農林水産省 近畿農政局	本州四国連絡高速道路（株）
海上保安庁 第五管区海上保安本部	（独）鉄道建設・運輸施設整備支援機構 北陸新幹線建設局
福井県	（一社）福井県建設業協会
滋賀県	（一社）滋賀県建設業協会
京都府	（一社）京都府建設業協会
大阪府	（一社）大阪建設業協会
兵庫県	（一社）兵庫県建設業協会
奈良県	（一社）奈良県建設業協会
和歌山県	（一社）和歌山県建設業協会
京都市	（一社）日本建設業連合会関西支部
大阪市	（一社）日本道路建設業協会関西支部
堺市	（一社）建設コンサルタント協会近畿支部
神戸市	関西電力（株）
（独）都市再生機構西日本支社	大阪ガス（株）
西日本高速道路（株）関西支社	関西エアポート（株）
阪神高速道路（株）	近畿中国森林管理局（オブザーバー）
（独）水資源機構関西・吉野川支社	大阪航空局（オブザーバー）



近畿建設リサイクル表彰（R3年度）

ニュースフォーカス

2022年度建設資源循環利用促進賞決定

「建設資源循環利用促進賞」は、建設事業における再生建設資材をより一層利用することを目的とし、再生建設資材のうち、建設発生土、建設汚泥処理土、再生骨材コンクリートを対象として、自主的にその利用量が多い工事元請業者を表彰するものであり、2019年度に建設副産物リサイクル広報推進会議が創設したものです。2022年度の表彰者は、以下の通りです。

2022年度建設資源循環利用促進賞 受賞企業一覧表

区分(品目)	基準 (工事件数、再生資材利用量は元請業者ごとの集計値)		表彰者数 (注2)	2022年度受賞企業
	再生資材利用 工事件数	再生資材利用量 (注1)		
(1)建設発生土	官民マッチング実績1件以上	官民マッチングシステムによる官民間工事間利用量	利用量が多い1又は2業者	勝山砂利採取販売協同組合 (福井県福井市)
(2-1)建設汚泥処理土 (現場内利用)	2件以上(注3)	建設汚泥現場内利用量	利用量が多い1又は2業者	該当者なし
(2-2)建設汚泥処理土 (改良土利用)	2件以上(注3)	建設汚泥改良土利用量(現場内利用を除く)	利用量が多い1又は2業者	昭和建設工業株式会社 (福島県郡山市)
(3)再生骨材 コンクリート	2件以上(注3)	再生骨材 H,M,L を用いたコンクリート利用量	利用量が多い1又は2業者	メタウォーター株式会社 (東京都千代田区)

注1:再生資材利用が工事発注条件となっている場合を除く。

注2:最上位が中小業者の場合は最上位の業者1社、最上位が大手業者の場合は、最上位の大手業者と中小業者のうちの最上位1社の2社とする。

大手業者:日本建設業連合会加盟会社

中小業者:大手業者以外

注3:建設汚泥については、利用工事が2件以上無い場合は表彰対象としない。

再生骨材コンクリート利用工事が2件以上無い場合は、当面の間、1件でも表彰対象とする。

建設リサイクルQ&A

Q1. TCFDとは？

A1. TCFDとは、2015年のパリ協定において、『世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求する』との長期目標が合意された。

この目標を達成するためにG20財務大臣及び中央銀行総裁の要請を受け、金融安定理事会（FSB）は、気候関連の情報開示及び金融機関の対応をどのように行うかを検討するため、「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD：Task Force on Climate-related Financial Disclosures）」を設置した。

TCFDは2017年6月に最終報告書（TCFD提言）を公表し、企業等に対し、気候変動関連リスク及び機会に関する下記の項目について開示することを推奨している。

TCFD提言に沿った情報開示は、一般にTCFD開示と呼ばれている。TCFD開示では、以下の4項目を開示推奨項目としている。

ガバナンス：気候関連リスク・機会についての組織のガバナンス

戦略：気候関連リスク・機会がもたらす事業・戦略、財務計画への実際の／潜在的影響（2度シナリオ等に照らした分析を含む）

リスク管理：気候関連リスクの識別・評価・管理方法

指標と目標：気候関連リスク・機会を評価・管理する際の指標とその目標

この中の指標と目標の実施状況として、温室効果ガス（GHG：Greenhouse Gas）排出量を開示する必要がある。

東京証券取引所は2022年4月以降、プライム市場に上場する企業に対して、TCFD提言に基づく情報開示を義務付けている。

建設副産物リサイクル広報推進会議事務局

インフォメーション

建設副産物リサイクル広報推進会議 の活動について

建設副産物リサイクル広報推進会議 事務局

キーワード：建設リサイクル、広報活動

建設副産物リサイクル広報推進会議では、下記の活動を行っております。

1. 2022建設リサイクル技術発表会の動画配信

令和4年11月9日に実施しました「2022設リサイクル技術発表会」の動画をYouTubeにて配信しております。

ご覧になりたい方は、こちらから <https://youtu.be/uVQwF85ahzU>

2. 令和5年度3R推進功労者等表彰 推薦案件募集

令和5年度の3R推進功労者等表彰の推薦案件募集を2月1日より開始します。

【推薦締切日】 令和5年4月17日（月）必着

【審査結果通知(推薦機関宛)】 令和5年9月下旬 予定

【表彰式開催日】 令和5年10月下旬 予定

詳細につきましては、下記のURLに掲載しております。

https://www.suishinkaigi.jp/diffuse/3r_commendation.html

3. 建設リサイクル広報用ポスター

毎年、3R推進月間に向けて建設リサイクルポスターを作成・販売しています。本ポスターを建設副産物リサイクル広報推進会議HPおよび行政機関の広報誌やホームページ等で広報し、建設リサイクルの活動を働きかけています。

2023年度建設リサイクル広報用ポスターは下記の予定で作成する予定です。

キャッチコピーの募集（5月末より開始予定）

図案の決定（8月中旬予定）

販売受付（9月中旬頃）

掲出開始（10/1）

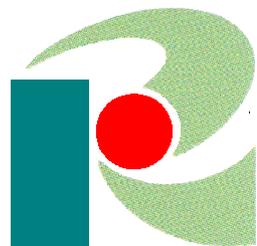
詳細は、下記のURLに掲載します。

<https://www.suishinkaigi.jp/publish/poster.html>

3. その他

事務局に寄せられる建設リサイクル等に関する質問に対応する等の活動を行っております。詳細は、HPをご覧ください。

<https://www.suishinkaigi.jp/>



**建設
リサイクル**

2023 冬号 Vol. 100

2023 年 1 月発行

建設副産物リサイクル広報推進会議

事務局：一般財団法人 先端建設技術センター